

エコアクション21
環境活動レポート

 **株式会社 エムアイ興産**



2018年11月15日発行

活動対象期間：平成29年4月～平成30年3月

長崎県佐世保市愛宕町38番地1

目次

環境方針	P-1
1 会社概要	P-2
2 許可の内容	P-3
3 施設一覧	P-4～P-5
4 保有機材車両一覧	P-6
5 産業廃棄物処理フロー図	P-7
6 環境目標とその実績	P-8
7 実施状況の評価と次年度の取組	P-9
8 環境関連法規等の遵守状況の確認および 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P-10
9 代表者による全体評価と見直しの結果	P-10

株式会社 エムアイ興産社 環境方針

1. 基本理念

株式会社エムアイ興産は、建設業（解体工事業）・産業廃棄物収集運搬・中間処理の事業活動を行う上で、環境の保全を経営の重要課題の一つとして認識し、事業活動の中で環境に与える影響を適確に把握すると共に、地球環境及び地域環境に配慮した事業活動を行う企業を目指します。

また、当社は事業活動を行うなかで地域住民や地域環境に配慮し、環境と人にやさしい事業活動を行っていきます。この実現のため、以下の環境方針を定め、その方針に基づいて環境の保全及び継続的改善に努めます。

2. 環境方針

(1) 省エネルギー活動の推進

事業活動における消費電力の節減等、二酸化炭素排出の削減に努めます。

(2) 燃料消費量削減による二酸化炭素排出削減の推進

エコドライブ及び運行ルート効率化を図る等、環境負荷への低減を推進します。

(3) 廃棄物の削減、再資源化活動の推進

事業活動に伴う廃棄物を最小限にする努力をし、再資源化活動を推進します。

(4) 水資源を大切にし、節水活動に努めます。

(5) グリーン購入の拡大並びに循環資源の活用を推進します。

(6) 化学物質を使用する場合、使用量削減を推進します。

(7) 当社の事業活動に関する環境配慮を推進します。

(8) 環境関連法規の遵守

環境関連の諸法規、条例及び地域協定等を遵守します。

(9) 継続的環境改善の実施

環境マネジメントに関する目的・目標を設定し、取組結果を定期的に点検・評価することにより、さらなる継続的な環境改善につなげていきます。

(10) 情報提供と地域の環境活動・施策への協力

環境活動レポートを公表するなど、社内外に対して環境に関する情報の提供を行うと共に、地域社会の一員として地域の環境活動並びに施策に積極的に参加します。

平成28年4月1日制定

株式会社 エムアイ興産

代表取締役 池田 正喜

1. 会社概要

1 事業所名 及び代表者指名

株式会社エムアイ興産

代表取締役 池田 正喜

2 所在地

本社 〒858-0917 長崎県佐世保市愛宕町3 8 番地 1

佐々支店 〒857-0311 長崎県北松浦郡佐々町本田原免 1 7 番地7

中間処理上 〒857-0401 長崎県佐世保市小佐々町黒石 2 1 5 番地

3 環境管理責任者指名および担当者連絡先

責任者 井手 敏

担当者 遠藤 恵美、 大本 百合子

連絡先 佐々支店 〒857-0311 長崎県北松浦郡佐々町本田原免 1 7 番地7

メールアドレス soumubu@mi-kosan.co.jp TEL 0956-62-3990

4. 事業活動

特定建設業（土木工事業、とび・土工工事業、しゅんせつ工事業、解体工事業）

一般建設業（建築工事業、大工工事業、石工事業、管工事業、*タイル・れんが・ブロック*工事業、鋼構造物工事業、鉄筋工事業、舗装工事業、塗装工事業、水道施設工事業）

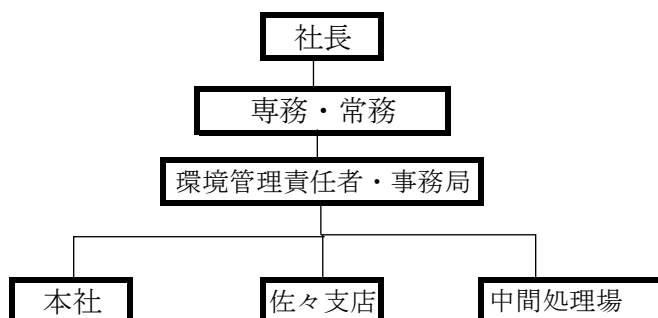
一般廃棄物収集運搬業、産業廃棄物収集運搬業、特別管理産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物中間処理業、再生資材製造・販売業

5. 事業規模

活動規模	単位	27年度	28年度 (h28年4月～h29 年3月)	29年度 (h29年4月～h30 年3月)
収集運搬 一廃及び産廃	t	29535.32	33325.3	19789.26 (内自社分1.36 t)
処理量（産廃中間処理）	t	46045.42	45010.66	28067.22 (内自社分4.2 t)
工事等の件数	件	100	94	84
売上高	百万円	476	526	468
従業員	人	39	36	37
事務所床面積	m ²	658.06	658.06	658.06
倉庫床面積	m ²	87.59	87.59	87.59
資機材置場面積	m ²	31,666.33	31,666.33	31,666.33
工場・作業所等床面積	m ²	220.05	220.05	220.05

6 企業情報の公開

- ・ 法人設立年月日 昭和62年7月29日
- ・ 資本金 2000万円
- ・ 売上 4 6 1 百万円（平成30年8月31日決算）
- ・ 組織図



・ 企業情報は「産廃情報ネット」でも公表しています。

2. 許可の内容

建設業

特定建設業（土木、とび・土工、しゅんせつ、解体工事業）

一般建設業（建築、大工、石、管、タイル・れんが・ブロック、鋼構造物、鉄筋、舗装、塗装、水道施設）

一般廃棄物収集運搬業許可：佐世保市許可番号佐世保市指令29廃指第3号

許可年月日平成29年2月25日 有効期限平成31年2月24日

事業範囲：燃やせるごみ、燃やせないごみ、粗大ごみ、資源物（特管一廃除く）、積替保管なし

優良認定：長崎県・長崎市：平成29年2月27日、佐賀県：平成30年5月27日

産業廃棄物収集運搬業・特別管理産業廃棄物収集運搬業

産業廃棄物収集運搬業			許可品																												
許可者	許可日および有効期限	許可番号	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動物植物性残渣	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及 び陶磁器くず	鋳さい	がれき類	動物の糞尿	動物の死体	ばいじん	水銀含有産廃・ばいじん	特管 廃油	特管 廃酸	特管 廃アルカリ	特管 廃石綿等	特管 ばいじん	特管 燃え殻	特管 汚泥		
長崎県	H29. 2. 2 7H36. 2. 26	04200000660	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●									
長崎県	H28. 4. 1 7H33. 4. 16	04250000660																							●	●	●	●	●	●	
佐賀県	H30. 5. 2 8H35. 5. 27	04106000660						●	●	●					●	●		●													
熊本市	H28. 1. 1 1H33. 1. 10	08103000660	●	●				●	●		●			●	●	●		●			●					●					
大分県	H27. 12. 14H32. 1 2. 13	04407000660						●		●	●																				

●：積み替え保管含まない

○：積み替え保管を含む

優良認定：長崎県・長崎市：平成29年2月27日 佐世保市：平成29年3月5日

産業廃棄物処分業

産業廃棄物処分業			処分方法	許可の種類					
許可者	許可日および有効期限	許可番号		プラスチック類	木くず	繊維くず	ガラスくず 及び陶磁器 くず	塊及びアス ファルト塊	がれき類 （コンクリ ート）
長崎県	H29. 2. 27 H36. 2. 26	04220000660	破砕 (移動式)	●	●	●	●	●	●
長崎市	H29. 2. 27 H36. 2. 26	07922000660	破砕 (移動式)				●	●	●
佐世保市	H29. 3. 5H 36. 3. 4	08021000660	破砕 (移動式)	●	●	●	●	●	
佐世保市	H29. 3. 5H 36. 3. 4	08021000660	破砕・分別				● （廃石膏 ボードに 限る）		

3. 施設一覧

中間処理(破碎施設)

①BR200J

A：施設の種類

ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類の破碎施設【移動式】

B：設置場所【駐機場所】

長崎県佐世保市小佐々町黒石 2 2 7 番1

C：設置年月日

平成9年1月9日

D：処理能力

ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず

320.0 t / 日 (40.0 t / h × 8時間)

がれき類

320.0 t / 日 (40.0 t / h × 8時間)

E：処理方法

クラッシャー方式

F：環境保全施設の概要

散水装置

②BR350JG-1

A：施設の種類

ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類の破碎施設

B：設置場所

長崎県佐世保市小佐々町黒石 2 2 7 番1

C：設置年月日

平成15年10月6日

D：許可番号

420017122

E：処理能力

ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず

1,320.0 t / 日 (165.0 t / h × 8時間)

がれき類

1,320.0 t / 日 (165.0 t / h × 8時間)

F：処理方法

ジョークラッシャー処理方式

G：環境保全施設の概要

散水装置

③BR130M

- A：施設の種類
廃プラスチック類、木くず、繊維くずの破碎施設
- B：設置場所
長崎県佐世保市小佐々町黒石 2 1 3 番
- C：設置年月日
平成17年8月31日
- D：処理能力
廃プラスチック類
253.7 t / 日 (31.7125 t / h × 8時間)
木くず
281.9 t / 日 (35.2375 t / h × 8時間)
繊維くず
281.9 t / 日 (35.2375 t / h × 8時間)
- E：許可番号
420050179
- F：処理方法
シュレッダー処理方式
- G：環境保全施設の概要
散水装置

中間処理(破碎・分別施設)

①GC060H

- A：施設の種類
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
(廃石膏ボードに限る。)の破碎・分別施設
- B：設置場所
長崎県佐世保市小佐々町黒石 2 1 3 番地、2 1 4 番地1
- C：設置年月日
平成17年1月25日
- D：処理能力
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
4.8 t / 日 (0.6 t / h × 8時間)

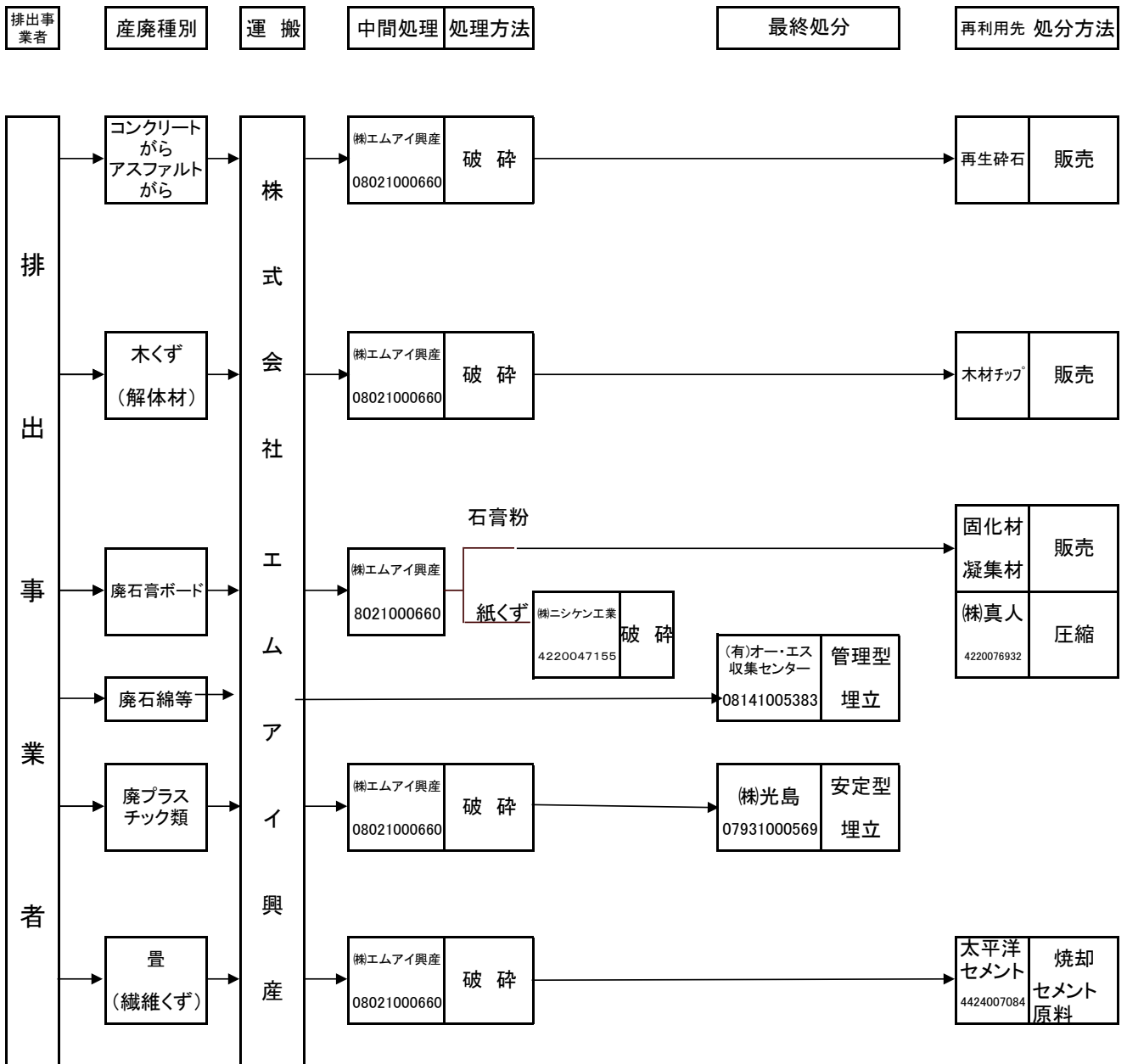
4. 保有機材

収集運搬車両一覧表

平成30年11月1日 現在

	種類	車体の形状 (車検証表記)	最大積載量(kg)	車両の寸法			保有台数
				長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	
1.	トレーラー	トラクタ	51,260 kg	653	249	324	1台
2.	トレーラー台車	セミトレーラ	25,000	860	299	167	1台
3.	セルフ(運搬車)	キャブオーバ	8,500 kg	1,015	249	288	1台
4.	10トンダンプ	ダンプ	9,400 kg	777	249	333	1台
5.	10トンダンプ	ダンプ	9,000 kg	771	249	330	1台
6.	10トンダンプ	ダンプ	9,000 kg	767	249	342	1台
7.	10トンダンプ	ダンプ	9,000 kg	761	249	340	1台
8.	10トンダンプ	ダンプ	8,800 kg	761	249	340	1台
9.	11トンアームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	11,600 kg	910	249	310	1台
10.	10トンアームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	8,800 kg	907	249	285	1台
11.	8トンアームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	7,900 kg	653	225	219	1台
12.	7トンユニック車	キャブオーバ	6,800 kg	972	249	296	1台
13.	4トンアームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	4,050 kg	595	220	245	1台
14.	4トンアームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	3,950 kg	593	216	247	1台
15.	4トンアームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	3,950 kg	593	216	247	1台
16.	4トンアームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	3,700 kg	617	220	246	1台
17.	3トンダンプ	ダンプ	3,000 kg	469	169	198	1台
18.	3トンアームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	3,000 kg	434	169	198	1台
19.	3トンアームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	3,000 kg	438	169	199	1台
20.	3トンアームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	3,000 kg	435	169	198	1台
21.	3トンアームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	3,000 kg	435	169	198	1台
22.	2トンアームロール車	キャブオーバ	2,000 kg	435	169	198	1台
23.	2トンWCアームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	2,000 kg	560	190	223	1台
24.	2トンWキャブ	キャブオーバー	2,000 kg	469	169	198	1台
25.	軽アームロール車	脱着装置付コンテナ専用車	350 kg	339	147	184	1台
26.	軽ダンプ	ダンプ	350 kg	339	147	184	1台

5. 産業廃棄物処理フロー図



6. 環境目標とその実績

環境目標

※達成率の判定○:100%、△:99~85%、×:84%以下

1) 省エネルギー活動

項目	単位	基準値27年	29年度目標値	平成28年4月～29年3月実績	平成28年4月～29年3月実績	達成率	判定
電力消費量	kwh	28497	27930	22917	25752	108	○
二酸化炭素排出量	Kg-CO2	14505	14216	11664.7	13107.768	108	○

※九州電力排出係数は27年度の値0.509(kg-CO2/kWh)を使用。

評価:目標値を達成。エコアクションへの取組で節電を意識した効果と思われる。

2) 燃料の削減

項目	単位	基準値27年	29年度目標値	平成28年4月～29年3月実績	平成28年4月～29年3月実績	達成率	判定
燃料油消費量ガソリン	L	11125	10904	11396.62	11073.33	98	△
燃料消費量軽油・重油	L	275058.1	269584	328675	247314	109	○
二酸化炭素排出量	Kg-CO2	717,983	703695	909708.83	688807.588	102	○

評価:目標値をほぼ達成。工事受注件数・受注高に比例するので、走行が減少した為と思われる。

3) 一般廃棄物の削減

項目	単位	基準値27年	29年度目標値	平成28年4月～29年3月実績	平成29年4月～30年3月実績	達成率	判定
一般廃棄物排出量	kg	950	931	2200	1025	90.829	△

評価:目標値を未達成。だが、意識が高まり、前年よりも大幅に削減できた。

4) 産業廃棄物の削減(廃タイヤ)

項目	単位	基準値27年	29年度目標値	平成28年4月～29年3月実績	平成29年4月～30年3月実績	達成率	判定
産業廃棄物	t	5.14	5.04	4.8	4.2	120	○

評価:目標値を達成。工事受注件数・受注高に比例するので、走行が減少した為と思われる。

5) 節水活動

項目	単位	基準値27年	29年度目標値	平成28年4月～29年3月実績	平成29年4月～30年3月実績	達成率	判定
節水	mm	548	532	258	302	176.16	○

評価:目標値を達成。エコアクションへの取組で節水を意識した効果と思われる。

6) グリーン購入の推進

項目	単位	基準値27年	29年度目標値	平成28年4月～29年3月実績	平成29年4月～30年3月実績	達成率	判定
グリーン購入品目数	品目数	2	4	4	4	100	○

評価:目標値を達成。今後増やしていくことは問題ない。

7) 環境配慮の解体工事受注件数

項目	単位	基準値27年	29年度目標値	平成28年4月～29年3月実績	平成29年4月～30年3月実績	達成率	判定
解体工事	件	100	110	94	84	76.364	×

評価:目標値に未達成。受注数には、こなせる限界があるので、受注件数を上げるという事よりも内容を見直す。

8) 地域ボランティア活動

項目	単位	基準値27年	29年度目標値	平成28年4月～29年3月実績	平成29年4月～30年3月実績	達成率	判定
周辺清掃活動	回/年間	2	2	2	2	100	○

評価:目標値を達成。今後もボランティア活動に参加する。

7. 実施状況の評価と次年度の取組

取組項目	長期目標	単年度目標	担当者	責任者	取組内容	評価
電力消費量削減	3カ年で -3%	平成29年度 -1%	全社員	環境保全 関係責任 井手 敏	① 昼休み及び不在時の照明消灯 ② 未使用時のパソコンの電源OFF ③ 室内空調は、夏期は26～28℃、冬期は20℃以下に設定	実施できた
燃料消費量削減	3カ年で -3%	平成29年度 -1%	全社員		① 効率的な収集ルートの設定 ② 社用車の効率的な運転の推進 ③ アイドリングストップの励行 ④ 定期的な車両整備の励行 ⑤ できるだけ往復して運搬励行。 ⑥ 走行距離と供給燃料量を記録する。	実施できた
節水活動の推進	3カ年で -3%	平成29年度 -1%	全社員		①水道の蛇口を調節して、必要以上に使いすぎないようにする。 ②流しっぱなしにしない。 ③トイレの使用の際に注意して、水を使用する。	実施できた
廃棄物の削減活動の推進	3カ年で -3%	平成29年度 -1%	全社員		①紙使用量の削減 ・両面コピーの徹底 ・裏紙の使用 ・ミスした紙は裏面をメモ用紙として使用 ・使用済みの封筒の再利用 ②社の購読の新聞などは資源ごみとして出し、再資源化率を向上 ③ゴミの分別の徹底	実施できた
グリーン購入の推進	3カ年で 10品目	平成29年度 3品目	事務員		①環境配慮商品の購入	実施できた
環境配慮解体工事の受注増	3カ年で +20件	平成29年度 100件	全社員		①積極的な営業活動 ②喜ばれる作業の実施	実施できた
地域ボランティア活動	年2回の維持	2回	全社員		①年2回全員参加	実施できた

29年度の取組をもとに、今後1年間継続して取り組んでいきます。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

社内で関連法規をチェックした結果、法令違反はありませんでした。
環境関連法規への違反は過去3年間無く、訴訟等についてもありませんでした。
利害関係者からの苦情、指摘もありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21に取組を開始し、2年間が経過しました。
本年度は、古い年式の事業用車両の入替えを数台行いました。より環境に配慮した車両への入替えを図る事で、少しでも環境への負荷を減らし、環境活動目標の実施は、わずかではありますが、適切に行われていると考えます。
しかしながら、未達成の項目がある事に対しては、この活動が、社員全員での活動であることの認識を強く持ってもらうよう、環境管理責任者および環境事務局は、各部署の運用活動を周知させるための教育と、全社員とのコミュニケーションを取りながら、各部署・全社員の役割分担を明確にし、環境意識の向上をはかるよう、目標達成に取り組んでもらいたいと思っております。

2018年11月15日 代表取締役 池田正喜